

2019年度 事業報告

I 概要

天皇陛下の生前即位に伴い、「平成」が終わり、新年号「令和」が施行されました。

この新しい始まりの令和元年度は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの機会を利用して、栄養改善に向けた国際的機運を高めるため、東京栄養サミット2020の開催に向けての準備の年でした。残念ながら、新型コロナウイルス感染が世界的な広がりを見せ、オリンピック延期されることになりましたが、厚生労働省健康局栄養指導室は「誰一人取り残さない日本の栄養政策～持続可能な社会の実現のために～」の冊子を作製しました。この中で戦後、「日本は経済成長に先立ち展開してきた**栄養政策**を、各時代の課題に合わせて発展させ、それと同じくして**経済成長を実現**し、世界一の長寿国となった」と書かれています。日本栄養士会雑誌1月号の特集「栄養100年 その歴史を紐解き、未来への旗を掲げる」とあわせて今一度熟読され、管理栄養士・栄養士が世界に誇れる実践活動をどのようにしてきたのかを理解していただきたく思います。

本会におきましても、設立74年という歴史の中で、会員の資質向上、地域貢献を担ってまいりました。今年度は、他（多）職種からの連携要請があとをたたず、「公益社団法人愛知県栄養士会」の存在が広く認知されたと感じる年でした。これは皆様各々が「管理栄養士・栄養士の見える化」をすすめて下さった結果と厚く御礼申し上げます。

特に、新年度早々開催された「第30回日本医学会総会」実行委員会より、栄養と健康についての啓発ブースの企画・運営の協力依頼を受けました。明治35年から4年に1度開催され名古屋では24年ぶりという由緒ある大会から強く要望されたものです。「食と健康プラザ」と命名されたブースには、来場者数延44,447名/9日間という実績を残し、協力会員数46名、協力企業数9社と総出で取り組みました。

さらに、JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）事業においては、国内における災害発生時に日本栄養士会及び愛知県からの要請に応じて機動性の高い栄養支援チーム（あいちD-DAT）の支援体制づくりや啓発活動が充実して参りました。この度、愛知県と本会との間に、“災害時における栄養・食生活支援活動に関する協定”を締結することができ、県内市町村に締結の趣旨が周知されたところです。

なお、組織の健全な運営には、会員の確保が必須です。昨年に続き令和元年度も、魅力ある企画が会員増につながると考え、部会員の要望に答えた各部の研修だけでなく、会員はもとより非会員の皆様にも多数ご参加いただける研修会・講習会の実施など、本会の魅力づくりに努めて参りました。その結果、会員数は前年度とほぼ同人数

を維持することができました。中でも新入会員は11.7%と高い水準となりました。これは、養成校での倫理講習会を継続して進めてきていることや大学生参加のフレッシュダイエティシアン研修会の昨年度評価とその改善を行った成果と考えています。もう一つ、会員向け魅力づくりが実現したのは、会報の一新です。カラー刷りになり、会員の声も多く取り入れ、読みやすくなりました。他団体にも配布し、愛知県栄養士会の存在を広げました。

食生活の重要性を普及啓発し公衆衛生の向上に寄与する事業（公益1）及び対象別に食と栄養の指導や支援を行う事業（公益2）では、多くの事業者より協力依頼があます。いずれも、栄養相談・骨密度測定・握力測定を組みあわせて行い、多くの参加者を得、県民の食からの健康づくりに貢献することができました。講演会等の講師依頼も増加傾向にあり、専門職集団としての役割を果たしております。

県民の栄養改善等に寄与するために専門職としての高度な技術を習得する機会を提供する（公益3）事業では、資質向上研修・講習会として、生涯教育研修をはじめ、実践に繋がるスポーツ栄養講座、在宅医療・介護研修会の充実を図って参りました。

特にスポーツ栄養には東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて関心が高まっており、スポーツ競技者への高度な指導ができる専門職として栄養士・管理栄養士の育成を図る講座には、多くの会員が受講しました。

また、在宅医療・介護においては国レベルで地域包括ケアシステムが推進されており、市町村での地域ケア会議出席依頼が倍増し、出席した会員の発言は、他職種から管理栄養士の技術能力に高い評価を受けることとなりました。こうした機会に、在宅医療・介護委員会のパンフレット等を配布し、訪問栄養食事指導につなげ、実績をのばしています。他の職種が開催する在宅医療に関する講習会などでは栄養問題が必須となり、委員会メンバーへの講師依頼が急増しております。

会員の活躍もめざましく、日本栄養士会 84Selection2019 での表彰など、会員皆様の質の向上が明らかに感じられます。全国 6 位の会員数を誇る大愛知のさらなる活躍を次年度にも繋げていただきますようお願いいたします。

以下、2019 年度の事業活動について報告します。

II 重点項目

1 栄養ケア・ステーションの充実・強化

栄養ケア・ステーションに、「食育推進委員会」「在宅医療・介護委員会」「スポーツ栄養委員会」を設置し、円滑な事業運営を進めて参りました。今後は、地域の認定栄養ケア・ステーションとの連携により、地域活動の充実を図って参ります。

2 関係機関・団体との連携強化

関係機関・団体との調整・連携・強化を図り、各種の栄養改善事業を実施し、その専門性を活かすことにより公衆衛生の推進・向上に寄与しました。

特に在宅医療・介護においては、愛知県内 11 医療圏ごとに訪問栄養食事指導者を配置し、要請に対し速やかに応じるシステムを愛知県栄養士会として構築し、医師会はじめ行政、在宅医療サポートセンター等に幅広く周知を図りました。

3 組織強化対策

新規会員の入会を促進するために管理栄養士・栄養士の養成校を訪問するほか、継続会員の維持確保に努め組織の強化を図ってきました。会員増対策は自身の問題として、会員一人ひとりが職場や地域で積極的な勧誘活動を日常的に実施していただくよう引き続きお願いしました。

4 管理栄養士の設置要望活動

市町村における管理栄養士の人材配置要望や、教育現場における「食育」を担う栄養教諭配置要望活動等を実施し、地域の栄養改善を高める対策を推進しました。さらに介護予防対策も予防に重点が移りつつあり、栄養と食の専門家としての管理栄養士の設置要望活動を推進しました。

5 会員の専門知識・技術の向上及び倫理観の醸成

会員の自己研鑽の場としての生涯教育研修会、各種専門的研修会・講演会を開催し、知識・技術の向上を図ると共に、会員以外にもその場を開放し、広く管理栄養士・栄養士の専門性を発揮できる体制づくりと栄養士の倫理観の醸成に心がけました。